

# 第1章 人口・人口動態および世帯の状況

## 第1節 人口

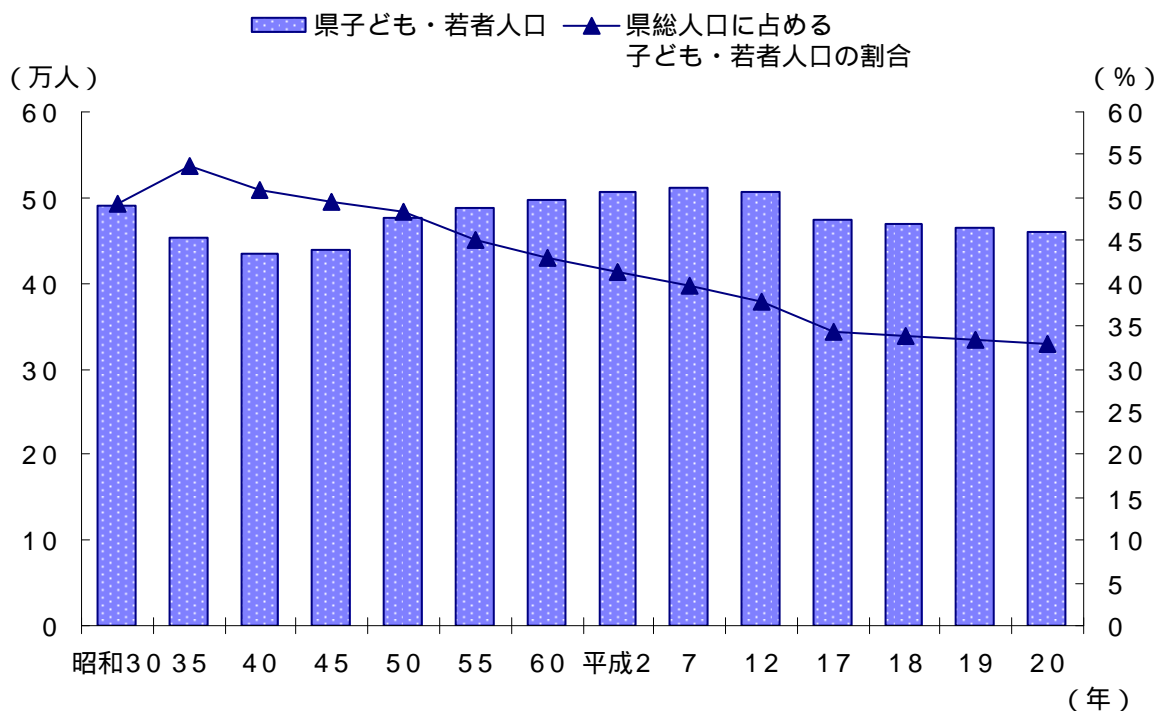
### 1. 子ども・若者人口の現状と推移

平成21年(2009年)10月1日現在の『滋賀県推計人口年報』によれば、本県の総人口は1,402,132人で、このうち子ども・若者(0~29歳)の人口は455,348人で、総人口の32.5%を占めています。

男女別にみると、男子は236,031人、女子は219,317人で、男子が16,714人上回っており、性比については、女子100人に対して男子は107.6人となっています。

県総人口に占める子ども・若者人口の割合の推移をみると、昭和30年には49.3%と半数近くを占めていましたが、その後は出生児数の減少により低下の一途をたどり、平成21年は32.5%と前年に比べてさらに0.4ポイント低くなっています。

第1-1-1図 子ども・若者の人口と総人口に占める割合の推移



(資料)平成18、19、20、21年は県統計課「滋賀県推計人口年報」より  
他は総務省統計局「国勢調査」より

## 2. 子ども・若者人口の市町分布

各市町における子ども・若者人口の割合をみると、滋賀県平均32.4%を上回っているのは、市部では、彦根市33.2%、草津市36.7%、守山市34.5%、栗東市36.1%、湖南市33.8%の5市となっており、郡部では、竜王町36.8%、愛荘町35.9%の2町となっています。

第1-1-2表 市町別子ども・若者人口（0～29歳）

（平成21年10月1日現在）

	総数	子ども・若者人口	子ども・若者人口				総人口のうち子ども・若者人口の占める割合	県0～29歳人口に対する市町0～29歳人口の割合
			0～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳		
県計	1,403,603	455,348	213,146	73,046	83,997	85,159	32.4	100.0
大津市	332,823	105,147	49,451	17,409	19,437	18,850	31.6	23.1
彦根市	111,306	36,973	16,807	5,840	7,457	6,869	33.2	8.1
長浜市	124,727	38,313	18,702	6,695	6,336	6,580	30.7	8.4
旧長浜市	83,790	26,710	13,260	4,418	4,294	4,738	31.9	5.9
旧虎姫町	5,499	1,586	707	332	302	245	28.8	0.3
旧湖北町	8,976	2,728	1,342	479	428	479	30.4	0.6
旧高月町	10,126	3,023	1,426	552	548	497	29.9	0.7
旧木之本町	8,192	2,194	965	452	419	358	26.8	0.5
旧余呉町	3,694	913	421	212	167	113	24.7	0.2
旧西浅井町	4,450	1,159	581	250	178	150	26.0	0.3
近江八幡市	81,535	25,186	11,661	3,902	4,550	5,073	30.9	5.5
旧近江八幡市	69,364	21,485	10,001	3,235	3,853	4,396	31.0	4.7
旧安土町	12,171	3,701	1,660	667	697	677	30.4	0.8
草津市	124,901	45,889	18,523	5,748	10,879	10,739	36.7	10.1
守山市	75,082	25,927	13,293	3,803	4,136	4,695	34.5	5.7
栗東市	63,094	22,746	12,516	2,933	2,981	4,316	36.1	5.0
甲賀市	94,173	29,681	14,052	5,280	5,264	5,085	31.5	6.5
野洲市	50,123	16,089	7,627	2,550	2,778	3,134	32.1	3.5
湖南市	55,146	18,616	8,090	3,023	3,797	3,706	33.8	4.1
高島市	52,571	14,562	6,885	2,882	2,601	2,194	27.7	3.2
東近江市	117,599	37,822	18,136	6,296	6,476	6,914	32.2	8.3
米原市	40,576	12,290	5,941	2,256	2,175	1,918	30.3	2.7
日野町	22,786	6,899	3,031	1,197	1,287	1,384	30.3	1.5
竜王町	13,672	5,031	1,766	960	1,375	930	36.8	1.1
愛荘町	20,313	7,284	3,494	1,055	1,222	1,513	35.9	1.6
豊郷町	7,351	2,274	1,042	394	410	428	30.9	0.5
甲良町	7,833	2,378	1,071	416	441	450	30.4	0.5
多賀町	7,992	2,241	1,058	407	395	381	28.0	0.5

（資料）県統計課「滋賀県推計人口年報」より

## 第2節 人口動態

### 1. 出生

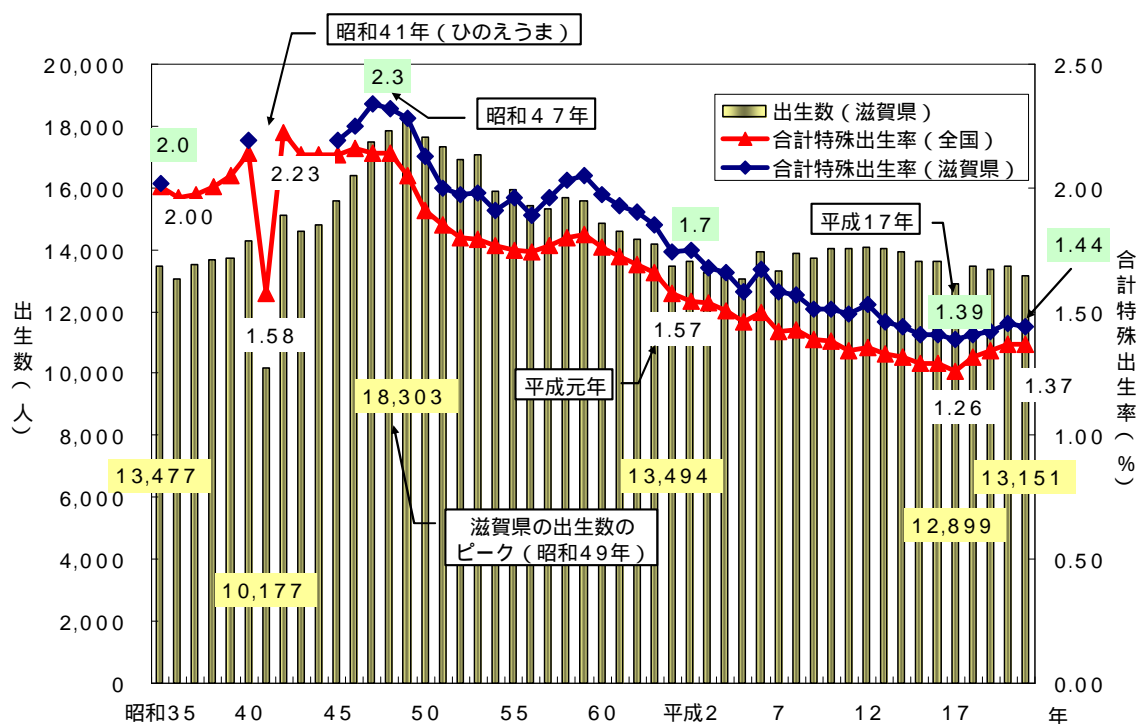
本県の出生率（人口千対）は、昭和22年に30.1の高率を記録しましたが、その後32年まで急激に低下し、36年には15.4という低率になりました。

昭和37年から49年までは、41年のひのえうまの変動を除き、年々上昇傾向を示しましたが、50年以降は再び低下をはじめました。平成4年以降は増減を繰り返し、緩やかな減少傾向で、平成17年には、これまでで最も低い9.5となりました。その後、9.8前後で推移していましたが、平成21年は9.5となっています。20年より0.3ポイント下回り、平成17年と同率となっています。全国も本県と同様の傾向で、平成21年は20年の8.7を下回り、8.5となりました。

本県と全国を比較してみると、本県は昭和48年まで全国値を下回る出生率でしたが、49年からは全国値を上回る率を示しており、平成21年には1.0ポイント高くなっています。

また、合計特殊出生率は、昭和40年、45年に2.19の高率を記録しましたが、55年に1.96と2.00を割り込んでからは急激に低下をはじめました。平成7年から12年までは、1.50前後で推移していましたが、17年には1.39と過去最低となりました。しかし、18年以降は上昇し、21年には1.44となっています。なお、全国との比較では、本県は常に全国値を上回る率を示し、平成21年には0.07ポイント高くなっています。

第1-2-1図 出生数、合計特殊出生率の推移



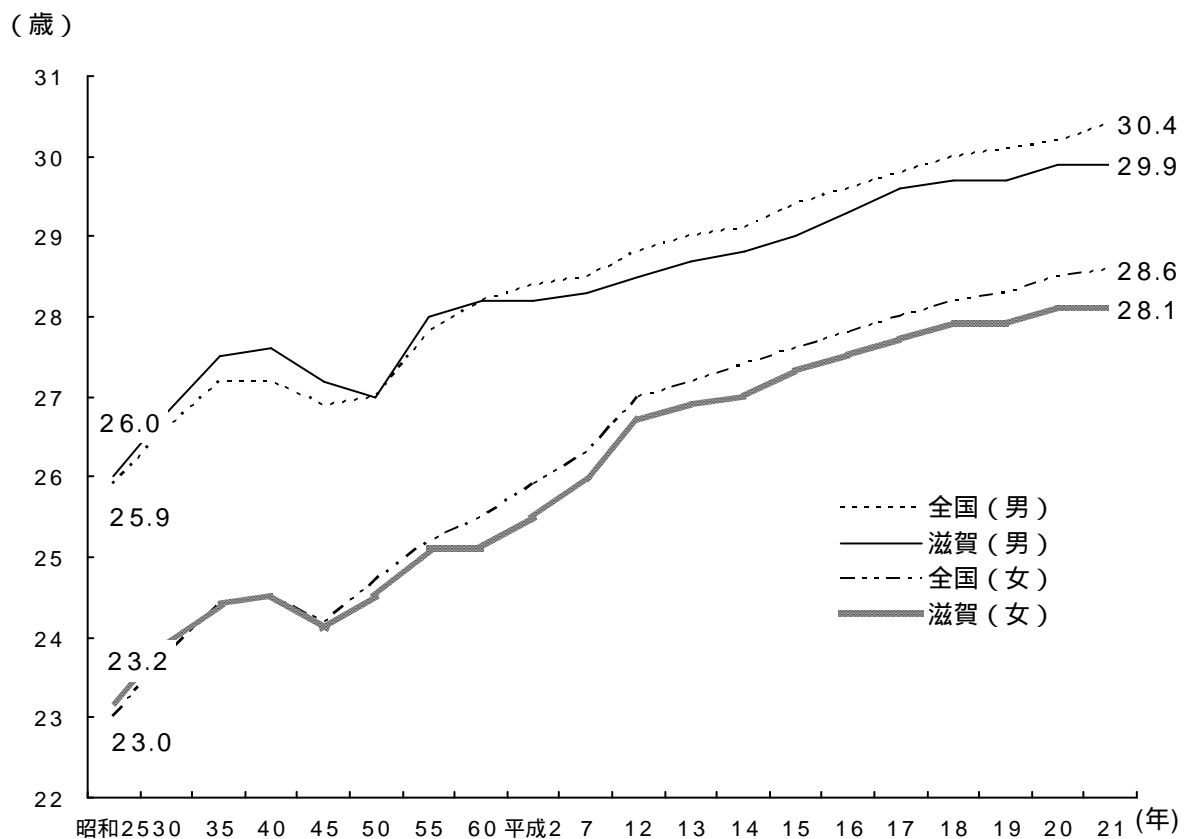
(資料) 厚生労働省大臣官房統計情報部「平成21年 人口動態統計」より

## 2. 婚姻

本県の平均初婚年齢は、昭和35年頃までは上昇傾向にありましたが、40年頃をピークに低下したものの50年頃からは再び上昇し、平成21年の平均初婚年齢は男で29.9歳、女で28.1歳となっています。全国平均と比べると、男女とも0.5歳下回っています。

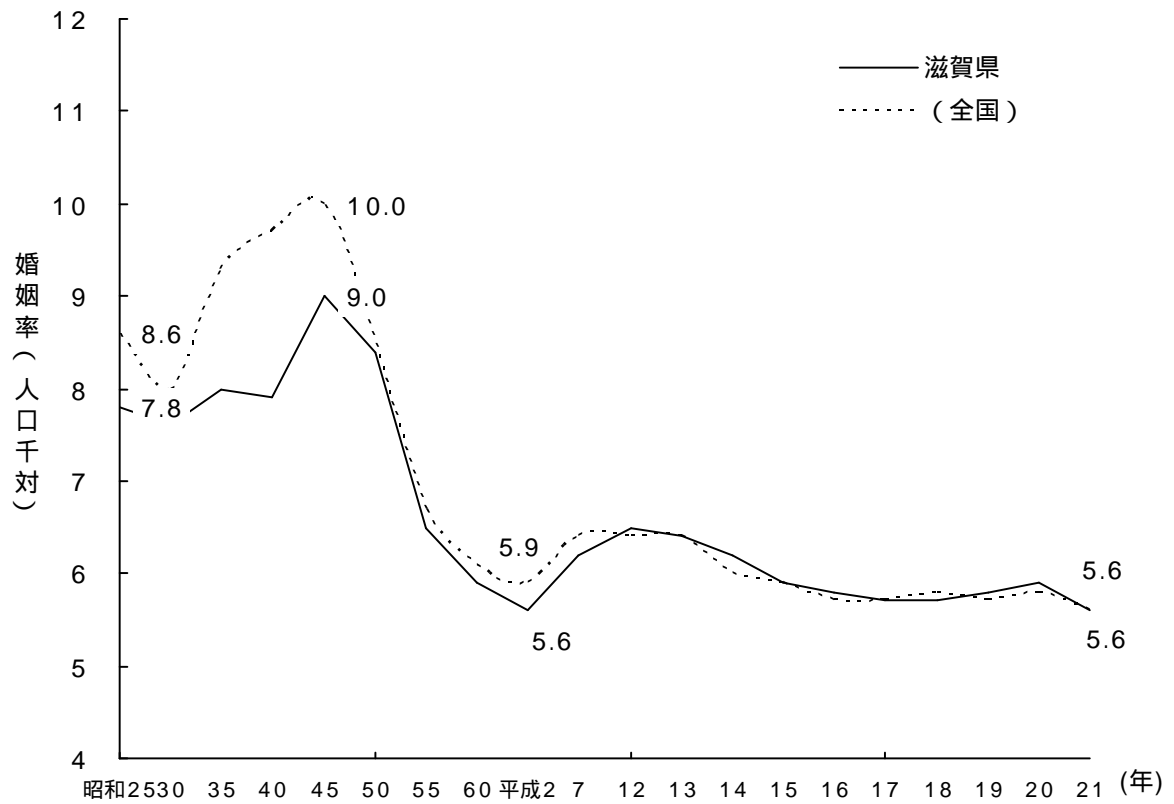
また、婚姻率(人口千対)をみると、昭和23年には11.6と高率を示し、また45年から50年にかけて戦後第2の結婚ブームを迎えた後、急激に減少しはじめました。62年には婚姻率が5.5と最低となりましたが、平成12年には6.5まで上昇しました。しかし、その後再び減少し、平成17年に5.7となった後、平成19年は5.8、20年は5.9と上昇しましたが、21年は5.6となっています。

第1-2-2図 平均初婚年齢の推移



(資料) 厚生労働省大臣官房統計情報部「平成21年 人口動態統計」より

第1-2-3図 婚姻率（人口千対）の推移



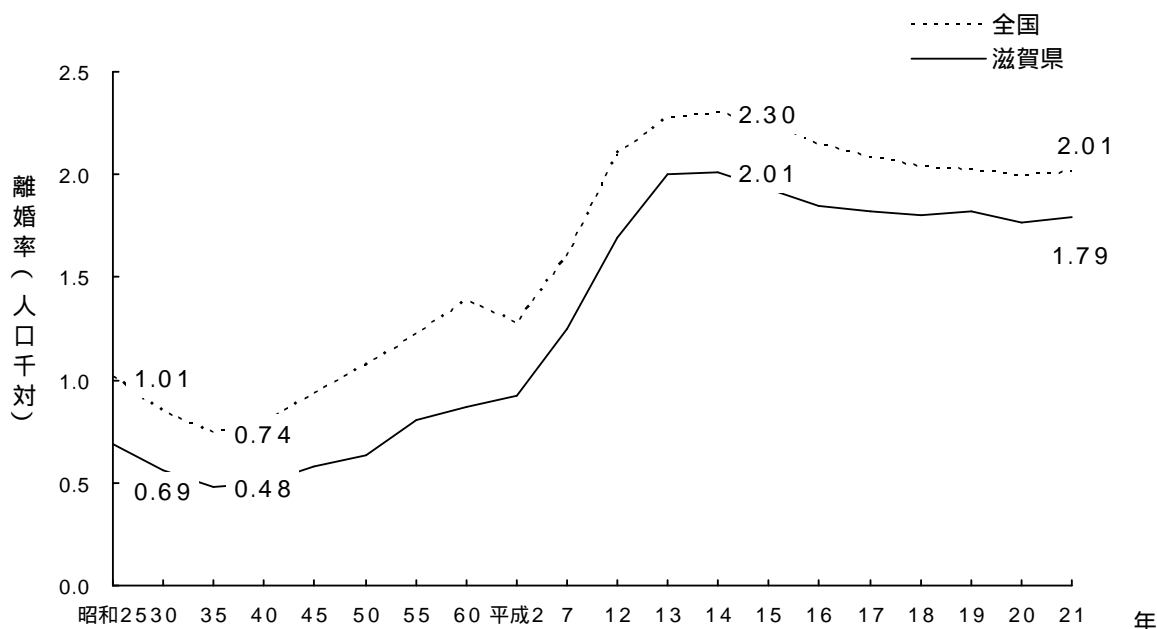
(資料) 厚生労働省大臣官房統計情報部「平成21年 人口動態統計」より

### 3. 離婚

本県の離婚率（人口千対）は、昭和25年まで高い率を示していましたが、その後30年代後半までは減少傾向を示しました。その後、40年代になり再び上昇傾向に転じ、55年頃からは急激に増加、平成3年にはついに1.00を超え、13年に2.00を超えました。しかし14年をピークに減少傾向となり、平成21年は2,470件、率で1.79となっています。これは3時間33分ごとに1組が離婚していることとなります。

なお、全国における離婚の際に子どもを引き取っている割合は、母親が83.2%、父親が13.2%、父母がそれぞれ分け合っている場合が3.6%となっています。

第1-2-4図 離婚率（人口千対）の年次推移



（資料）厚生労働省大臣官房統計情報部「平成21年 人口動態統計」より

## 4. 死亡

平成 21 年の本県の子ども・若者（0～29 歳）の死亡状況をみると、死亡者数は 133 人（前年より 23 人増）で、県全体死亡者数 11,036 人（前年より 74 人減）の 1.2%で、死亡率（子ども・若者人口千対）は 0.29 となっています。5 歳階級別年齢層では、乳幼児期（0～4 歳）の死亡者数は 42 人（うち 0 歳は 31 人）、割合は 0.4%と、子ども・若者の死亡割合の中では最も高い率となっています。

また、死因についてみると、0歳では「先天奇形、変形及び染色体異常」が最も多く、1歳～14歳では、「不慮の事故」が25.0%を占め、多くなっています。また、15～29歳では、第1位が「自殺」、第2位が「不慮の事故」となっています。

第1-2-1表 平成21年死因別死者数（年齢階級別）

区 分	0 歳		1～14 歳		15～19 歳		20～24 歳		25～29 歳	
	死者数 (人)	割合 (%)	死者数 (人)	割合 (%)	死者数 (人)	割合 (%)	死者数 (人)	割合 (%)	死者数 (人)	割合 (%)
悪性新生物	0	0.0	3	12.5	2	9.5	2	6.9	2	7.1
神経系の疾患	0	0.0	2	8.3	1	4.8	0	0.0	1	3.6
心疾患	1	3.2	2	8.3	3	14.3	1	3.4	4	14.3
周産期に発生した病態	9	29.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
先天奇形、変形及び染色体異常	18	58.1	3	12.5	2	9.5	0	0.0	0	0.0
乳幼児突然死症候群	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不慮の事故	2	6.5	6	25.0	3	14.3	2	6.9	5	17.9
自殺	0	0.0	1	4.2	6	28.6	19	65.5	11	39.3
その他	1	3.2	7	29.2	4	19.0	5	17.2	5	17.9
計	31	100.0	24	100.0	21	100.0	29	100.0	28	100.0

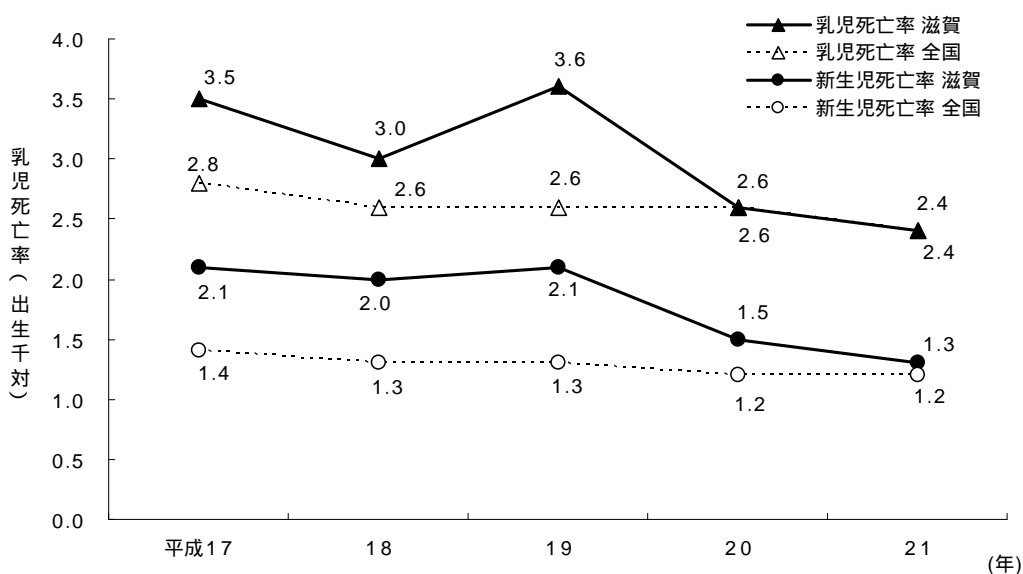
（資料）厚生労働省大臣官房統計情報部「平成21年 人口動態統計」より

本県の乳児死亡率（出生千対）は、昭和 15 年頃は 100 を超えていましたが、急激に低下し、昭和 52 年に 10 を割り、その後緩やかな低下傾向となっています。平成 21 年の乳児死亡数は 31 人で、20 年（35 人）より 4 人減少し、乳児死亡率は 2.4 でした。うち、新生児死亡数は 17 人で、新生児死亡率は 1.3 となっています。

死亡率について全国平均と比較しますと、平成 19 年まで全国値を上回っていましたが、平成 20 年に乳児死亡率は同率となり、新生児死亡率も平成 21 年には 0.1 ポイントのみの差となっています。

本県の周産期死亡率（出産千対）は、昭和 55 年には 18.7 でしたが、平成 2 年には 8.8 になり、近年は 5 前後で推移しています。平成 21 年は周産期死亡数 53（うち早期新生児死亡数 14 人）で、死亡率 4.0 となり、平成 20 年より数、率ともに減少しました。また、周産期死亡率は、平成 20 年まで全国値を上回っていましたが、平成 21 年は 0.2 ポイント下回りました。

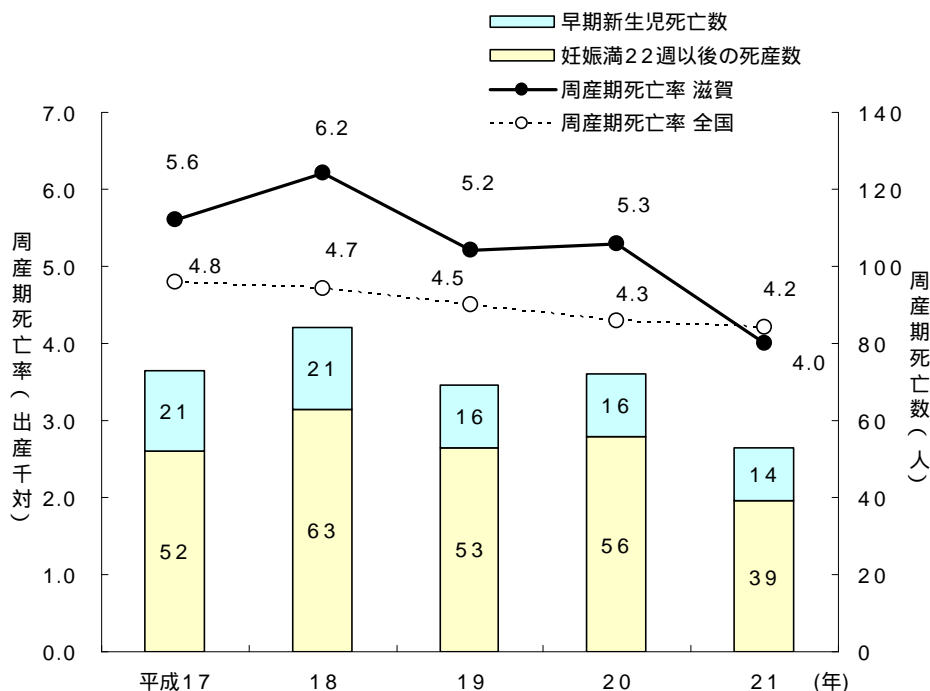
第1-2-5図 乳児死亡率、新生児死亡率の推移



(資料) 厚生労働省大臣官房統計情報部「平成21年 人口動態統計」より

乳児死亡：生後1年未満の死亡  
 乳児死亡率：乳児死亡数を出生数で割ったもの  
 新生児死亡：生後4週間未満の死亡  
 新生児死亡率：新生児死亡数を出生数で割ったもの  
 早期新生児死亡：生後1週未満の死亡

第1-2-6図 周産期死亡率の推移



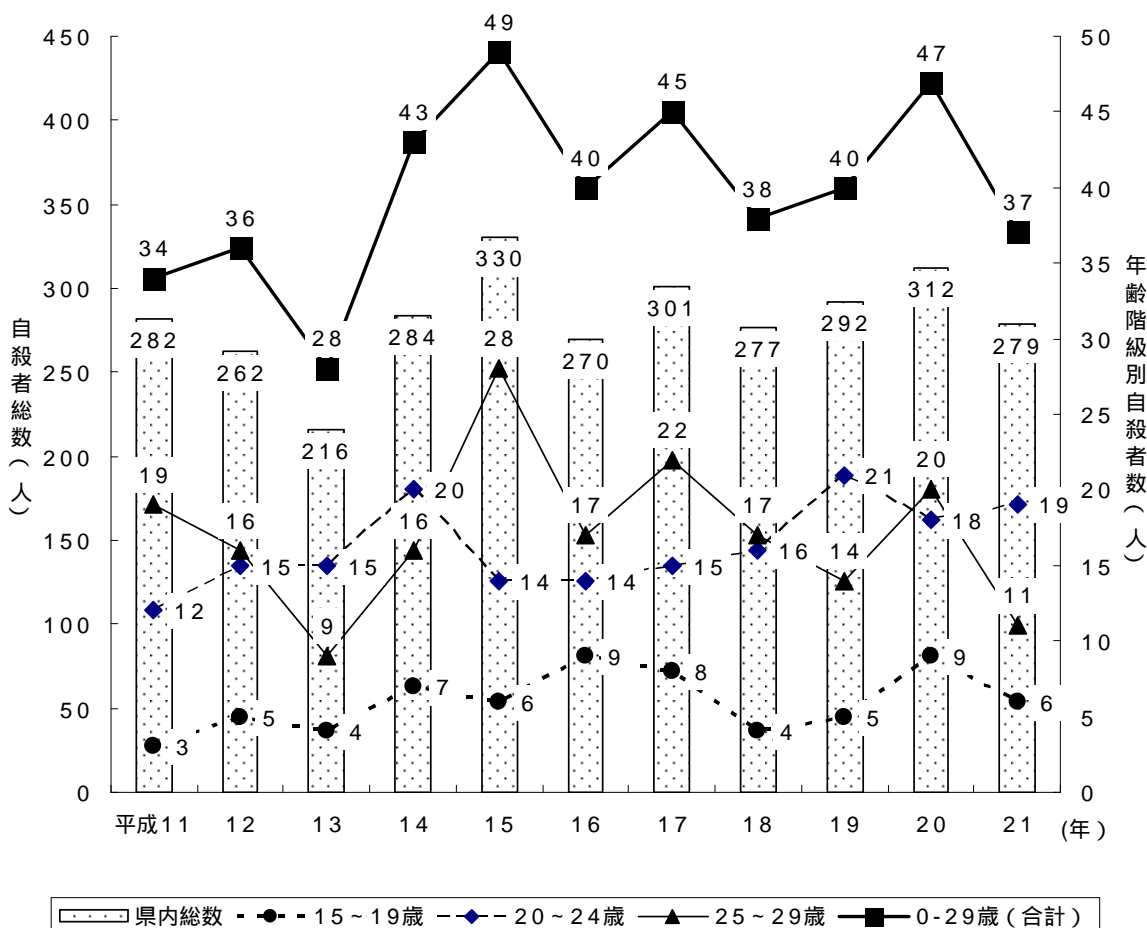
(資料) 厚生労働省大臣官房統計情報部「平成21年 人口動態統計」より

周産期死亡：妊娠満22週以後の死産＋生後1週未満の早期新生児死亡  
 周産期死亡率：周産期死亡数を出産数（出生数＋妊娠満22週以後の後期死産数）で割ったもの  
 早期新生児死亡率：出生数で割ったもの  
 妊娠満22週以後の死産率：出産数で割ったもの



本県の自殺死亡者数は、平成3年頃から増え、平成15年に300人を超え、その後300人前後で推移しています。また、子ども・若者(0~29歳)の自殺死亡者数は平成14年に40人を超え、その後40人前後から50人までの間で推移しています。平成21年の自殺死亡者数は279人で、うち子ども・若者は37人でした。年齢階級別では、20~24歳で増加傾向がみられます。

第1-2-7図 子ども・若者の自殺者数の推移

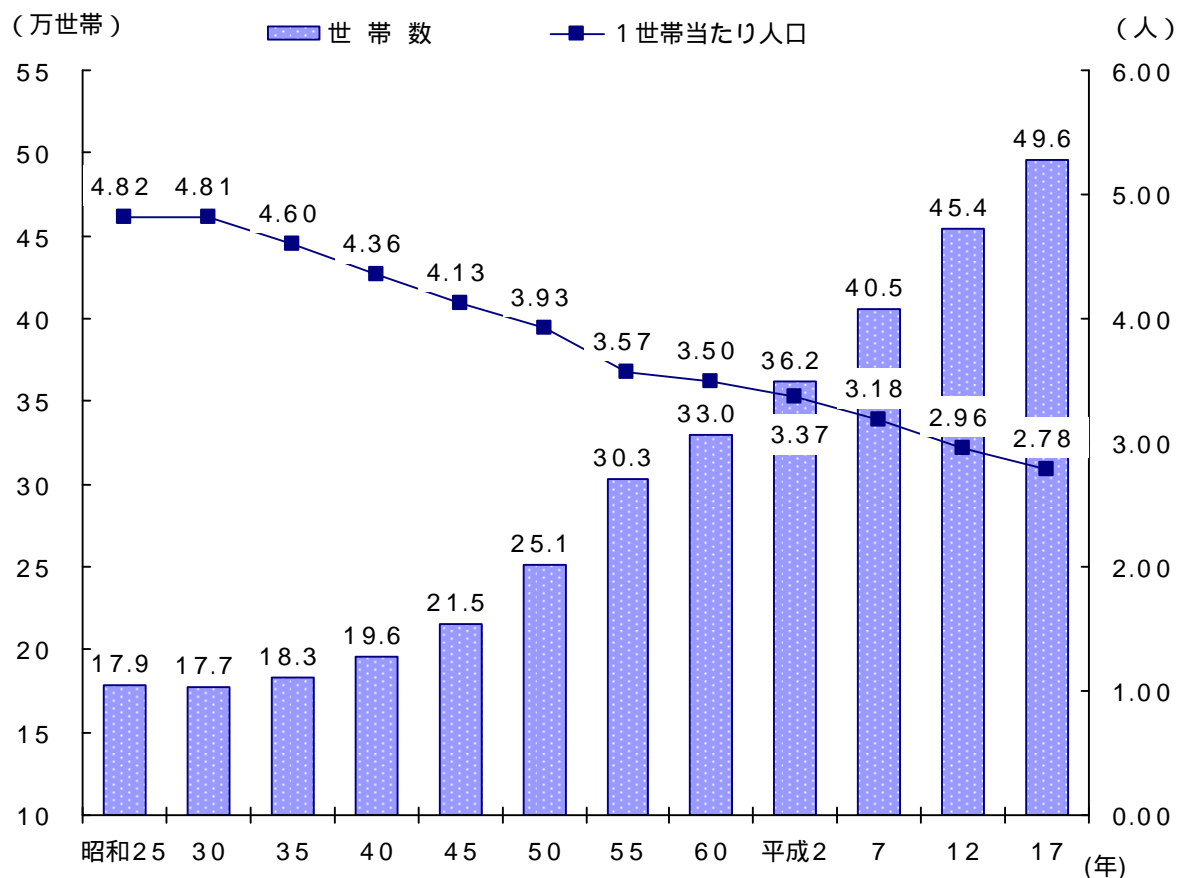


(資料) 厚生労働省大臣官房統計情報部「平成21年 人口動態統計」より

### 第3節 世帯

平成17年（2005年）10月1日現在の本県の推計世帯数は495,960世帯で、1世帯当たりの人口は2.78人となっています。昭和30年代以降、世帯数は一貫して増加しているのに対し、1世帯当たりの人口は減少し続けており、核家族化などにより世帯規模の縮小傾向が続いています。

第3-1-1図 世帯数および1世帯当たり人口の推移

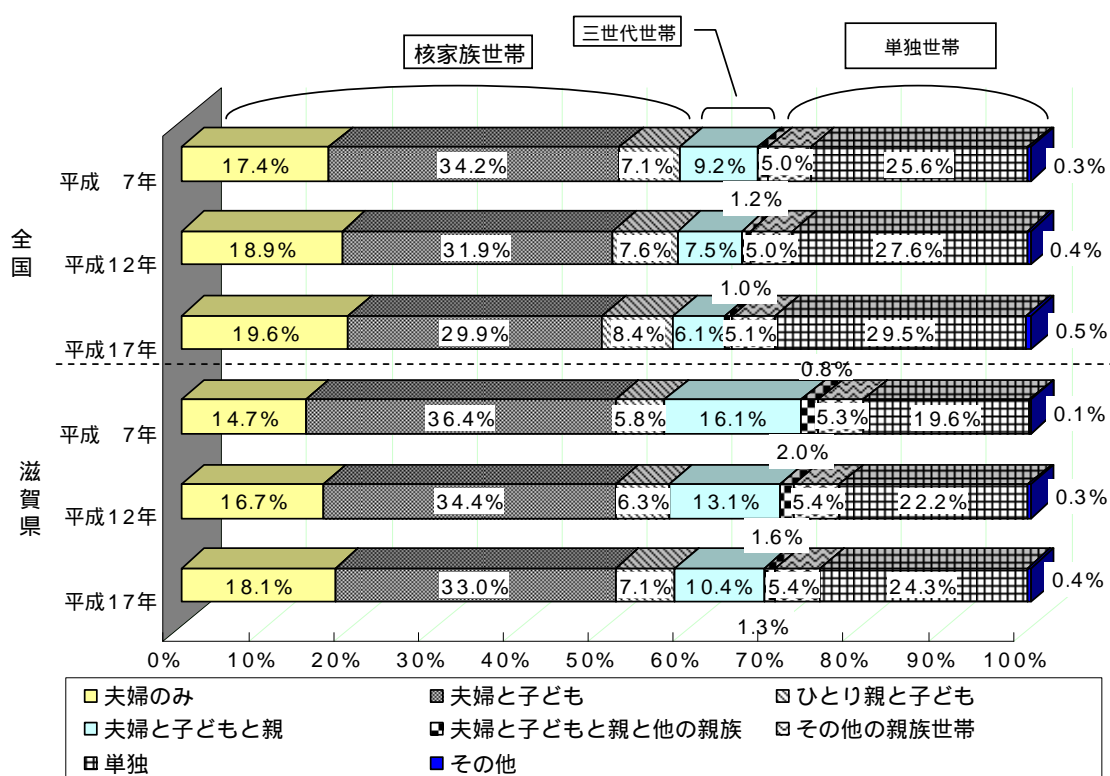


(注) 昭和55年、60年、平成2年、7年、12年、17年の世帯数については県推計による。

(資料) 総務省統計局「国勢調査報告」、県統計課「滋賀県推計人口年報」より

平成17年の本県の一般世帯を家族類型別にみると、「親族世帯」が359,612世帯で一般世帯総数の75.3%を占め、「単独世帯」が116,197世帯(24.3%)、「非親族世帯」1,836世帯(0.4%)となっています。また、「親族世帯」のうち「核家族世帯」は、278,067世帯で一般世帯総数の58.2%を占め、「その他の親族世帯」は81,545世帯(17.1%)となっています。全国と比べると、「非親族及び単独世帯」の割合が低く、「親族世帯」の割合が高くなっています。「親族世帯」のうち平成12年から5年間に「核家族世帯」は278,067世帯となり、構成比にして0.7ポイント増加しました。そのうち、「夫婦のみの世帯」と「親1人と子供からなる世帯」は構成比にしてそれぞれ1.4ポイント、0.8ポイント増加していますが、「夫婦と子供からなる世帯」は構成比にして1.4ポイント減少しています。

第2-3-3図 一般世帯の家族類型別世帯数



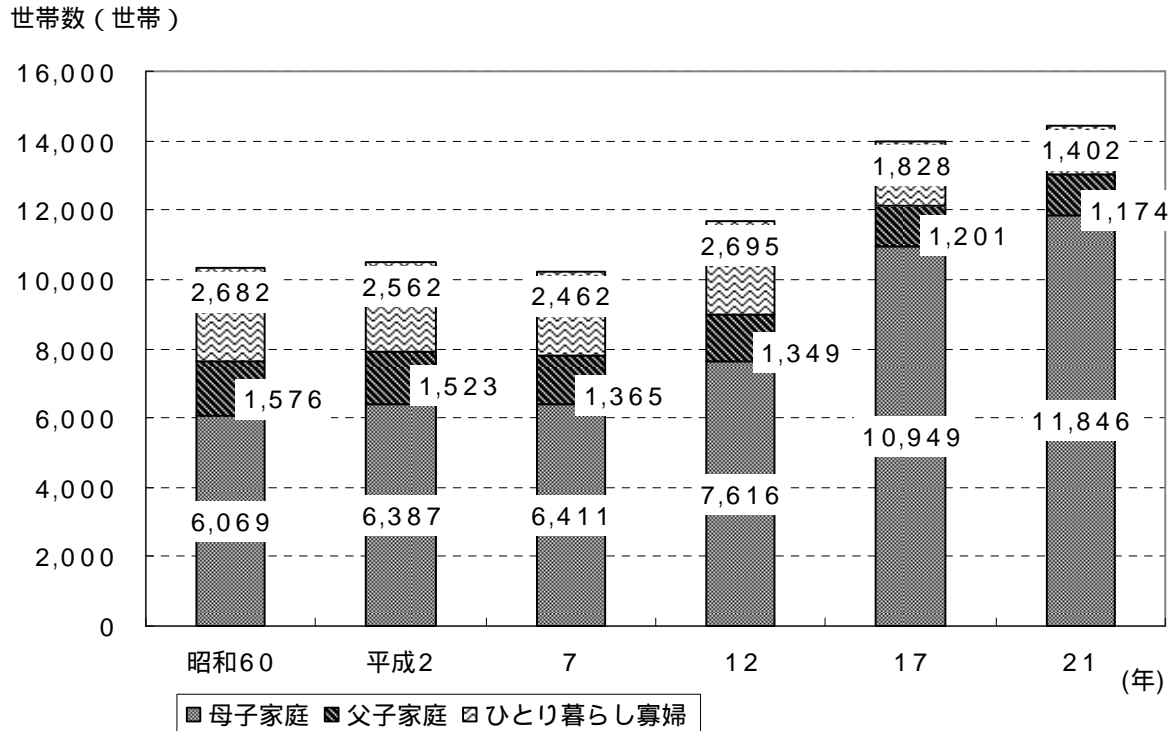
(資料) 総務省統計局「国勢調査」より

区分	年次	総数	親族世帯	核家族世帯			その他の親族世帯	非親族及び単独世帯		
				夫婦のみ	夫婦と子供	親1人と子供				
世帯数	滋賀県	平成2年	350,673	292,084	199,930	44,191	136,578	19,161	92,154	58,589
	7	394,271	316,484	224,498	57,997	143,598	22,903	91,986	77,787	
	12	439,370	340,569	252,619	73,524	151,325	27,770	87,950	98,801	
17	477,645	359,612	278,067	86,692	157,529	33,846	81,545	118,033		
全国	平成2年	40,670,475	31,203,904	24,218,079	6,293,858	15,171,520	2,752,701	6,985,825	9,466,571	
	7	43,899,923	32,532,560	25,759,709	7,619,082	15,032,192	3,108,435	6,772,851	11,367,363	
	12	46,782,383	33,679,286	27,332,035	8,835,119	14,919,185	3,577,731	6,347,251	13,103,097	
17	49,062,530	34,337,386	28,393,707	9,636,533	14,645,655	4,111,519	5,943,679	14,725,144		
構成比	滋賀県	平成2年	100.0	83.3	57.0	12.6	38.9	5.5	26.3	16.7
	7	100.0	80.3	56.9	14.7	36.4	5.8	23.3	19.7	
	12	100.0	77.5	57.5	16.7	34.4	6.3	20.0	22.5	
17	100.0	75.3	58.2	18.1	33.0	7.1	17.1	24.7		
全国	平成2年	100.0	76.7	59.5	15.5	37.3	6.8	17.2	23.3	
	7	100.0	74.1	58.7	17.4	34.2	7.1	15.4	25.9	
	12	100.0	72.0	58.4	18.9	31.9	7.6	13.6	28.0	
17	100.0	70.0	57.9	19.6	29.9	8.4	12.1	30.0		

(資料) 総務省統計局「国勢調査」より

平成21年4月の滋賀県のひとり親家庭等の状況については、母子家庭は11,846 世帯、父子家庭は1,174 世帯、ひとり暮らし寡婦は1,402 世帯となっています。母子家庭は昭和60年と比べると二倍近く増加しています。

第1-3-3図 ひとり親家庭等の世帯数の推移



(資料) 子ども・青少年局 「ひとり親家庭等生活実態調査」より